

日本社会科教育学会 第67回全国研究大会（千葉大会） プログラム

大会主題 改めてグローバル化と社会科を考える

期 日 2017（平成29）年9月16日（土）・17日（日） ※関連行事は15日（金）

会 場 千葉大学総合校舎（西千葉キャンパス 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33）

主 催 日本社会科教育学会 日本教育大学協会全国社会科部門

後 援 千葉県教育委員会 千葉市教育委員会

日 程

第1日目 9月16日（土）

8:30	9:30	12:00	13:30	16:00	16:10	17:10	17:30	19:30
受付	自由研究発表Ⅰ	昼食 評議員会	シンポジウム			総会	移 動	懇親会 (大学生協)

第2日目 9月17日（日）

8:30	9:00	12:00	13:00	15:30
受付	自由研究発表Ⅱ	昼食	課題研究発表	

関連行事

公開授業 2017（平成29）年9月15日（金）
 会 場 千葉大学教育学部附属中学校（〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33）
 内 容 一人一台タブレットを活用した社会科授業 中学校3年生公民的分野（予定）
 受 付 12:30～13:05
 授 業 13:10～14:00
 研究協議会 14:10～15:10

第1日目 2017(平成29)年9月16日(土)

自由研究発表Ⅰ 9:30~12:00

自由研究発表Ⅰ—第1分科会 (G4-51)

司会者 開智国際大学 坂井 俊樹
愛知教育大学 土屋 武志

(1) 中等教育世界史における批判的思考力の育成

—シンガポール歴史教科書の分析から—

愛知県立常滑高等学校・愛知教育大学大学院 内藤 裕子

(2) ホロコースト教育のための教材開発

—イギリス・ロンドン大学の事例—

筑波大学 柴田 政子

(3) 市民育成のための歴史教育

—Facing History and Ourselves の場合—

岐阜高等工業専門学校 空 健太

(4) 「対話」を方法原理とする社会科教育における思考力育成の論理

—米国 P4C 社会科教材における Social Application Exercises の特質に着目して—

岡山大学大学院 出野 誉大

(5) 現代韓国における李元淳の歴史教育論と「日韓共同の歴史教育運動」

—日本と韓国の「共同の歴史認識に向けて」—

東京大学大学院博士課程・日本学術振興会特別研究員 DC 2 柳 準相

自由研究発表Ⅰ—第2分科会 (G4-52)

司会者 山梨大学 服部 一秀
宮崎大学 藤本 将人

(1) ドイツ BW 州における持続可能なトライアングルを用いた地理学習の特徴

岐阜工業高等専門学校 阪上 弘彬

(2) ドイツの地理教育における天然資源の位置づけ 地学的内容との融合

静岡大学 山本 隆太

(3) 幼年期の社会認識形成における「学習活動」の再検討

— C. Seefeldt らの所論を手がかりにして—

日本女子大学 渡邊 巧

(5) アメリカ社会科における「情動」に関する研究

— SEL を事例として—

筑波大学大学院 早瀬 博典

(4) 「子ども・若者の声」に基づく市民性教育の理論と実際

— 米国イリノイ州シカゴを事例に—

筑波大学大学院 久保園 梓

自由研究発表Ⅰ—第3分科会 (G4-53)

司会者 筑波大学 伊藤 純郎

広島大学 木村 博一

(1) 小学校教則綱領歴史科に関する考察

早稲田大学 奥野 武志

(2) 愛知県・戦前における郷土教育

— ことに、名古屋市南久屋小学校の実践を中心にして—

愛知県立時習館高等学校 伊藤 正英

(3) 昭和戦前期における「調べる綴り方」の理論と実践

— 綴り方倶楽部臨時特輯号『調べる綴り方の理論と指導実践工作』をもとにして—

兵庫教育大学 福田 喜彦

(4) 社会科成立期における中学校社会科日本史学習指導の性格

— 1949年度文部省実験学校の研究動向を手がかりに—

信州大学 篠崎 正典

(5) 高等学校「倫理・社会」成立時の研究会活動

— 都倫研と都社研の活動—

慶應義塾大学慶應義塾大学教職課程センター 太田 正行

自由研究発表Ⅰ－第4分科会 (G5-41)

司会者 名古屋産業大学 竹澤 伸一
東京学芸大学 渡部 竜也

(1) 授業コミュニケーションの分析を通じた社会科授業研究の在り方
—意志決定カテゴリーを指標として—

関西福祉大学 小野間正巳

(2) 社会科教育における「実践力」の捉え方を考える
—国立教育政策研究所研究報告書「21世紀型能力」を緒に—

上越教育大学 志村 喬
同 茨木 智志
同 中平 一義

(3) 佐伯啓思『反・民主主義論』と社会科

関西福祉科学大学 小西 正雄

(4) 二人称アプローチによる社会科学学習の脱中心化
—学習者と教師の共同学習へ—

佐賀大学 佐長 健司

自由研究発表Ⅰ－第5分科会 (G4-41)

司会者 三重大学名誉教授 山根 栄次
東京福祉大学 小野 智一

(1) 論争問題学習における政治的対立軸の取り扱い
—憲法9条模擬国民投票の実践から—

筑波大学附属駒場中・高等学校 山本 智也
慶應義塾高等学校 松崎 多宏

(2) 貧困認識形成の課題をふまえた授業開発
—公正，協調，持続可能性に着目して—

高千穂大学 鈴木 隆弘

(3) 現代社会の諸課題を考察する見方や考え方を身に付けさせる
—公民科科目の年間授業計画—

東京都立農芸高等学校 渥美 利文

(4) 中等公民教育の授業実践で現代社会の諸課題の解決は如何に構想されてきたか

—「希望」を視点にして実践研究・実践記録を読み解く—

筑波大学 村井 大介

(5) 倫理「日本の思想」にみる公共空間の形成のあり方

—新科目「公共」を見据えた指導法とその課題—

岐阜県立加納高等学校 大橋 弘志

自由研究発表Ⅰ—第6分科会 (G4-42)

司会 宮崎大学 吉村功太郎

東北学院大学 坪田 益美

(1) 市民的資質の育成を図る単元構成の工夫

—5年生 歴史的分野と地理的分野の同時展開から可能性を探る—

筑波大学附属小学校 粕谷 昌良

(2) 論争的問題を通して「政治的リテラシー」を涵養する

—「争点を知る」に着目して—

お茶の水女子大学附属小学校 佐藤 孔美

(3) 「政治的リテラシー」を涵養する学習の構想

—様々な立場から考えることで当事者性を育成できるのか—

お茶の水女子大学附属小学校 岡田 泰孝

(4) 高等学校における生徒の多様化に対して社会科教師は何をめざすか

—一定時制課程のJSL生徒の市民性形成にむけた学習づくり—

東京学芸大学 南浦 涼介

東京都立北豊島工業高等学校 佐藤 亨

東京都立豊多摩高等学校 坂口 克彦

(5) 正統的周辺参加論に依拠した、生徒と教師の相互行為による社会科授業づくりの研究

—単元「地方自治：オスプレイを九州佐賀国際空港に受け入れた方がよいか」を事例に—

佐賀大学教育学部附属中学校 野田 英樹

自由研究発表Ⅰ—第7分科会 (G4-43)

司会者 京都教育大学 水山 光春
北海道教育大学 金 玟辰

- (1) 小・中学校社会科における群馬県学習のカリキュラム開発に関する研究
—中間報告—

神戸女子大学 佐藤 浩樹
群馬社会科教育学会

- (2) 中学校社会科地理学習の揺れ動きと教師の意識
—地誌学習と地域調査学習をめぐって—

香川大学 鈴木 正行

- (3) 観光の教育力を活かした高校への出前授業
—那覇国際高校 (S G H) 1年生を対象に—

玉川大学 寺本 潔

- (4) モンゴルの地理教育における野外調査単元の開発
—日本の地理教育を参考にして—

愛知教育大学 Batgerel Batdorj

- (5) 世界の地域的多様性を捉える新たな視点
—世界地理学習・世界地誌学習のための基礎的考察—

群馬大学名誉教授 山口 幸男

自由研究発表Ⅰ—第8分科会 (G5-31)

司会者 奈良教育大学 岩本 廣美
筑波大学 井田 仁康

- (1) 具体物を通してアイヌの人々の生き方を学ぶ
—マレプによる鮭漁を通して、「自然との共生」への気付き—

札幌市立平岡中央小学校・札幌市立幌西小学校 (実践時) 伊藤健太郎

- (2) 中学校地理教科書にみる中国・四国地方認識の変容

山陽学園大学非常勤講師 今井 英文

- (3) 「世界の諸地域」学習における価値判断に関わる学習について

東京学芸大学 荒井 正剛

- (4) 高等学校地理Bでの知識構成型ジグソー学習を取り入れたアクティブ・ラーニング型授業の実践
—オーストラリアとニュージーランドにおける原住民の人口減少の原因を比較検討する—

兵庫県立柏原高等学校 久保 哲成

自由研究発表Ⅰ—第9分科会 (G4-31)

司会者 兵庫教育大学名誉教授 原田 智仁
早稲田大学非常勤講師 三橋 広夫

- (1) 中学歴史分野における対話的学びの実践事例
—アメリカにおける歴史的思考力の考察を通して—

帝京大学 五十嵐卓司

- (2) 世界史の題材を活用した主権者教育授業開発
—「知のモデル化」理論を活用して—

東京都立武蔵高等学校・附属中学校 高橋 勝也

- (3) 唐物から古代東アジアを考える高校日本史の授業

日本大学習志野高等学校 渡辺 哲郎

- (4) 「二つの世界大戦の時代」の歴史内容解釈開発と授業実践の展開
—今日の世界との連続性に着目した新たな内容解釈と授業実践例—

早稲田大学 遠藤紳一郎
愛知県立日進西高等学校 野々山 新

- (5) 高等学校における歴史リテラシーの育成の試み
—授業実践「古代アテネになぜ民主政ができたのか？」を中心に—

同志社香里中学校高等学校 虫本 隆一

自由研究発表Ⅰ—第10分科会 (G4-32)

司会者 福山大学 小原 友行
横浜国立大学 重松 克也

- (1) 社会的課題の解決と地域の形成をめざす市民性教育
—社会参画を通し、子どもの貧困教育格差に取り組む社会科授業—

茨城県立取手第一高等学校 大滝 修

- (2) 憲法をめぐる「今」を読み解く
—中学校公民的分野における新聞活用の試み—

成城学園中学校 中川 理江子

(3) 政治参加意識を育む中学校社会科の授業実践

—「平和主義のあり方を考える」学習を通して—

松戸市立第三中学校 鴫田 拳

(4) 社会参画力を高める社会科授業に関する一考察

—2つの地域学習の実践から—

福島大学大学院・いわき市立汐見が丘小学校 星野 尊乗

(5) 俯瞰による社会科学習づくり

—これからの授業実践のために—

北海道教育大学 田山 修三

自由研究発表Ⅰ—第11分科会 (G4-33)

司会者 北海道教育大学 内山 隆
帝京大学 中山 京子

(1) 社会科授業における子どもの伸びとつまずきの考察

—小学校社会科授業を事例として—

さいたま市立春岡小学校 須賀 知宏

(2) 哲学対話を通して社会的事象の見方・考え方を吟味する初等社会科授業の提案

—江戸川区子ども未来館における「子ども哲学」の実践を手がかりに—

筑波大学大学院 得居 千照

(3) 市民性を視点とした幼小接続カリキュラムの構想

—普遍的価値を探究する螺旋的問題解決学習のための学習材の設計—

聖徳大学 岡田 了祐

(4) ユーモア論的授業論の展開

—有田和正実践の継承と発展—

愛知教育大学大学院・岡崎市立六名小学校 恒川 徹

(5) 「構成的な板書」による社会科の授業づくりの理論と実践

所沢市立宮前小学校 木下 智実

自由研究発表Ⅰ—第12分科会 (G5-21)

司会者 日本女子大学 田部 俊充
群馬大学 宮崎 沙織

- (1) 価値判断力や意思決定力を育成する社会科の授業
—ごみ集積所の在り方について考える学習を通して—

筑波大学附属小学校 梅澤 真一

- (2) グローバル化した社会を学ぶ中学年社会科学習
—第4学年「国際交流に取り組む大田区」の実践を通して—

府中市立府中第四小学校 向井隆一郎
東京学芸大学附属小金井小学校 小倉 勝登
東京都教育庁指導部 秋田 博昭
越谷市教育委員会 長谷川裕晃
杉並区立天沼小学校 新宅 直人

- (3) 小学校社会科において身近な地域素材と教科書事例とを往還させる授業研究
—第5学年の学習内容の実感的理解と「身近な地域認識」の深まりを目指す単元構成—

福島大学大学院・福島県矢祭町立矢祭小学校 久野 雄平

- (4) 福島の水産業の復興と社会科授業
—福島の水産業をテーマにした社会科授業の構想—

琉球大学 白尾 裕志

- (5) 公害を学習する今日的意義と課題

四日市公害と環境未来館 井川 和道

昼食 12:00~13:30

大会参加（事前登録）申込フォームにて申し込まれ、振り込みが完了された方には、弁当を大学会館生協食堂にてお渡しします。

評議員会 12:00~13:30 (教育学部 2207号教室)

シンポジウム 13:30～16:00 (G2)

グローバル化の進展の中で社会科を考える

[趣旨]

2016年に、世界を驚かせた二つの国民投票・選挙がありました。一つは英国のEU離脱（ブレグジット）を問う国民投票で離脱賛成票が過半数を占めたことです。もう一つは、アメリカ大統領選挙におけるトランプ氏の勝利です。どちらも開票前の予想を大きく覆す結果となりましたが、どちらもグローバル化の進展に逆行する方向性を、それぞれの国民が選択したこととして注目されます。「グローバル化」という言葉は、20世紀末から使用されるようになった言葉ですが、「地球規模での一体化」、「国民国家の枠を越える」、「ヒト、モノ、カネ、情報などの地球規模での移動」など、地球規模での、政治的、経済的、文化的などの様々な社会変動を意味しています。しかし、グローバル化は地球規模や国際社会の枠組みに影響を与えるのみならず、一国内の政治、経済、文化などにも大きな影響を与えています。上記の二つの国民投票・選挙の結果はその現れともいえます。

本シンポジウムでは、グローバル化の進展の中で「国家」を、「反グローバル化」の兆しが見える中で「世界」を考えるとともに、そのような情勢の中で社会科はどのような教科であれば良いか、そこでどのような人材を育成していけば良いかを探ります。

コーディネーター 鳴門教育大学 梅津 正美
千葉大学 戸田 善治

シンポジスト

- (1) グローバル化・反グローバル化時代におけるナショナルなものへの取り扱い
—政治理論の社会科教育への含意—

九州大学 蓮見 二郎

- (2) 「グローバル社会の中の自分」をとらえる社会科教育

東京大学 華井 和代

- (3) 語用論的な資質を育成する歴史教育
—世界史単元「言説『貨幣』を考える」を事例にして—

広島大学附属中・高等学校 宮本 英征

- (4) グローバル社会における多文化社会科教育の必要性

埼玉大学 桐谷 正信

総会 16:10～17:10 (G2)

懇親会 17:30～19:30 (大学会館生協食堂)

第2日目 2017(平成29)年9月17日(日)

自由研究発表Ⅱ 9:00~12:00

自由研究発表Ⅱ—第1分科会(G5-51)

司会者 日本体育大学 池野 範男
上越教育大学 茨木 智志

(1) デューイ『教育における興味と努力』から読みとる
—社会科における「深い学び」—

芝浦工業大学柏高等学校 杉浦 正和
大東文化大学 若菜 俊文
駿河台大学 金沢はるえ

(2) 現在の主権者教育が見落としたもの
—柳田國男の社会科・公民教育論の検討から—

上智大学非常勤講師 新井 明

(3) 「歴史的思考力」の研究〈その2〉
—木村尚三郎の「歴史的思考」論を媒介に中学生の歴史学習を読み解く—

東京学芸大学連合大学院 齊藤 征俊

(4) 哲学対話における〈在り方生き方〉教育
—まなび，変身する子ども—

筑波大学大学院 中山 佳紀

(5) 歴史意識を育成する歴史教育論の構築に関する考察
—日独の歴史教育学研究の考察を通して—

佐賀大学 宇都宮明子

(6) 「真正な対話」を通じた論争的空間の創造
—日韓の子どもを主体とした「竹島／独島」の言説の解体・再構築—

広島大学大学院 金 鍾成

自由研究発表Ⅱ—第2分科会 (G4-51)

司会者 埼玉大学 大友 秀明

東京学芸大学附属竹早中学校 上園 悦史

(1) 18歳選挙権時代の経済教育プログラム開発

—公共経済学・法と経済学をふまえた政策決定能力育成をめざして—

日本体育大学 猪瀬 武則

三重大学 山根 栄次

名古屋女子大学 宮原 悟

東洋大学 栗原 久

実践女子大学 高橋 桂子

山梨大学 服部 一秀

筑波大学附属駒場中・高等学校 小貫 篤

(2) 情報リテラシーを育てる社会科授業の構成(5)

—自らの活動から、実感のある学びをつくる—

東京学芸大学附属世田谷小学校 岸野 存宏

(3) 「公民としての資質・能力の基礎を育成する新学習指導要領の教材開発

—第5学年「情報化の進展と販売の仕事」の実践を通して—

江東区立東砂小学校 清水 隆志

八王子市立小宮小学校 城崎 武士

板橋区立成増ヶ丘小学校 西谷 秀幸

東京都教育委員会 児玉 大祐

足立区立中川小学校 加藤 雅弘

大田区教育委員会 矢部 洋一

清瀬市教育委員会 西山 智

新宿区教育委員会 北中 啓勝

(4) 中学校社会科公民的分野における金融経済教育の基礎的研究

—経済的事象における「公正」概念に関する意識調査分析を手がかりとして—

信州大学 田村 徳至

(5) 経済教育と経済学の間

—高等学校入学試験の問題から—

東洋大学 栗原 久

(6) 心理志向の経済教育論の可能性に関する検討

筑波大学博士特別研究員 呂 光暁

自由研究発表Ⅱ—第3分科会 (G4-52)

司会者 大阪体育大学 工藤 文三
広島大学 棚橋 健治

- (1) パフォーマンス評価を積み重ねる社会科授業づくり
—知識・技能・経験を基にして自分の言葉で語ることを目指して—
千葉県立若松小学校 石川祐基治
- (2) 高等学校「倫理」における形成的評価の試み
—プラトン初期対話篇『ラケス』を教材として—
北海道高等学校「倫理」「現代社会」研究会・北海道岩見沢東高等学校 佐藤 克宣
- (3) 思考力を育成する世界史授業と考査問題のあり方に関する一考察
—授業で育成した思考力を適切に評価することを目指して—
愛知県立日進西高等学校 野々山 新
- (4) 学社連携による新潟水俣病学習実践の評価研究
—公害被害の経験を伝える学びの成立過程の記述を通して—
筑波大学大学院 佐々木 暢
- (5) 二人称的アプローチによる正統的周辺参加の社会科授業開発の研究
—中学校社会科地理的分野第2学年授業「自然環境の特色と防災」の場合—
佐賀大学大学院 三浦 未来
- (6) 戦後教育改革期の社会科における道徳的「学力」の測定・評価に関する研究
—国立教育研究所及び日本教育学会による学力調査の分析—
筑紫女学園大学 松本 和寿

自由研究発表Ⅱ—第4分科会 (G4-53)

司会者 筑波大学 江口 勇治
大阪教育大学 峯 明秀

- (1) 身近にある「法やきまり」を活かした小学校における主権者教育
—第3学年「わたしたちのまち」の授業実践分析から見えてきたこと—
千葉県立高浜第一小学校 三浦 昌宏
- (2) 思考力・判断力・表現力を培う模擬裁判
—日本弁護士連合会主催 高校生模擬裁判選手権の10年の学びから—
湘南白百合学園中学・高等学校 熊本 秀子

(3) 「2000人調査」を踏まえた高校公民科の改革

—法教育を視点にして—

福井大学 橋本 康弘
静岡大学 磯山 恭子
岡山大学 桑原 敏典
川崎医療短期大学 中原 朋生
亜細亜大学 三浦 朋子
宮崎大学 吉村功太郎
東京学芸大学 渡部 竜也

(4) 憲法教育と高大接続

—民主主義と立憲主義を中心として—

大正大学 吉田 俊弘

(5) アラバマ州の社会科における法的リテラシーの育成の方法論

静岡大学 磯山 恭子

自由研究発表Ⅱ—第5分科会 (G5-41)

司会者 同志社女子大学 藤原 孝章
東京都立北豊島工業高等学校 佐藤 亨

(1) 憲法教育における主権者意識形成の課題

—大学院生を対象にしたワークショップ「恵庭事件」から—

北海道教育大学 前田 輪音

(2) 小学校における公民としての資質育成の研究

—社会科領土学習と歴史学習を中心にして—

八王子市立第十小学校・日本体育大学大学院博士課程後期 橋本 隆生

(3) 生徒の間いで設計する有権者教育

—生徒が「投票」に参加する意欲を上げるための視点と授業—

千葉県立津田沼高等学校 杉田 孝之

(4) 二つの投票授業実践から考える主権者教育

—時間軸を取り入れた主権者教育—

神奈川県立平塚農業高等学校初声分校 金子 幹夫

(5) 高校3年生の政治意識を考える

—政治知識・意識調査から—

上宮高等学校・関西大学 田中 智和

(6) 若年層の投票参加における政治教育の役割に関する研究

筑波大学大学院 大脇 和志

自由研究発表Ⅱ—第6分科会 (G4-41)

司会者 教職員支援機構次世代型教育推進センター 大杉 昭英
宇都宮大学 熊田 禎介

(1) 中学校社会科における連帯の見方・考え方の形成に関する研究

—単元「現代社会における日本の貧困」の分析を通じて—

静岡大学大学院 柏木 亮太

(2) 国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成を担う生徒の育成Ⅳ

—中学校社会科における歴史的分野と公民的分野の分野間の接続のあり方を中心として—

公民的分野研究会

葛飾区立亀有中学校 詰田 剛也

江東区立亀戸第二中学校 仲村 秀樹

(3) 倫理的意思決定のための能力育成ゲーム開発

—東京学芸大学附属高等学校における授業実践—

東京大学大学院 白畑 春来

同 竹内 魁

同 増田 明之

同 蘇 萌

同 王 冠雄

同 小栗健士朗

東京大学 華井 和代

(4) 「多数決の原理とその運用の在り方」に関する指導Ⅲ

東京都江東区立第二亀戸中学校 仲村 秀樹

(5) 多文化共生社会を生き抜く力を養う社会科授業 3

—地域から考えるイスラムへの理解—

南魚沼市立城内中学校 仙田 健一

(6) 生徒の「問い作り」から始まる主体的・対話的で深い学び

— The Question Formulation Technique (QFT) —

聖心女子大学 風巻 浩

自由研究発表Ⅱ—第7分科会 (G4-42)

司会者 宮城教育大学 吉田 剛
弘前大学 小瑶 史朗

(1) ESD構成概念を取り入れた小学校社会科の授業開発

—社会科としてのESD単元の在り方を探って—

上越教育大学大学院・新潟県柏崎市立枇杷島小学校 宮下 祐治

(2) 食料生産の持続可能性を考える小学校社会科産業学習

—米作りに必要なエネルギーに着目して—

三重・社会科エネルギー教育研究会
三重大学 永田 成文
四日市市立泊山小学校 萩原 浩司
同 石田 智洋

(3) 渡良瀬川沿岸市町村の地域学習副読本における足尾鉍毒事件の取り扱い

—歴史教科書との比較を通して—

奈良教育大学 板橋 孝幸

(4) 持続可能な社会の構築を目指した地理の授業実践

—学校設定科目「ESD」の実践を通して—

神戸大学附属中等教育学校 森田 育志

(5) 持続可能な社会づくりを目指した主権者教育の在り方

—経済の見方や考え方をういた授業実践から—

東京都立府中東高等学校 塙 枝里子

(6) 社会科における多様な立場を基盤にした合意形成の授業方略

—グローバルな諸課題に焦点を当てて—

奈良教育大学 内山 知一

自由研究発表Ⅱ—第8分科会 (G4-43)

司会者 上越教育大学 志村 喬
福島県立郡山高等学校 小田 賢二

(1) 福島第一原発事故による自主避難者への住宅支援問題を考える授業実践

—原発事故、あれから6年、「帰る／帰らない」家族会議—

茗溪学園中学校高等学校 前嶋 匠

(2) D 中学校における防災教育と学力の関係

—生徒・教職員の意識調査をもとに—

新潟県魚沼市立湯之谷中学校 五十嵐一浩

(3) 社会科・公民科における防災に関する内容の取り扱い

—東日本大震災の事例を取り上げて—

練馬区立大泉中学校 石本 貞衡
東京家政大学 二川 正浩

(4) 東日本大震災後の地方議会における論点をふまえた防災の学習

名古屋学院大学 國原幸一郎

(5) 社会科における防災対応能力の育成に関する研究

—脆弱性の視点を取り入れた授業の分析を通じて—

静岡大学大学院 高田 惇平

自由研究発表Ⅱ—第9分科会 (G5-31)

司会者 早稲田大学 小林 宏己
兵庫教育大学 吉水 裕也

(1) 小学校高学年における社会科としての情報単元の開発

—現在と過去から情報の社会的役割を学ぶ授業実践を例に—

名古屋市立福田小学校 松本 卓也

(2) 小学校教員が抱く社会科授業の課題

—学校訪問指導の現場から—

秋田県教育庁南教育事務所雄勝出張所 小坂 靖尚

(3) 考古学資料を活用しての社会科・理科指導法の実践と効果

—小学校教員養成課程の授業実践として—

北翔大学短期大学部 菊地 達夫

(4) 考え、話し合い、学び合う学習

—児玉中授業スタイルの定着—

本庄市立児玉小学校・前本庄市立児玉中学校 島田 啓司

(5) 社会科教員養成課程における学生の社会科教育観の変容と進路選択

—山梨大学教育人間科学部生によるイメージマップとライフストーリーチャートを事例として—

山梨大学 後藤賢次郎

(6) 歴史認識の「ゆれ」を体感させる「教職日本史」授業の実践とその課題

東洋大学 須賀 忠芳

自由研究発表Ⅱ—第10分科会 (G4-31)

司会者 聖徳大学 廣嶋憲一郎
宮城教育大学 松岡 尚敏

(1) 公民としての資質・能力の基礎を育成する新学習指導要領の教材開発

—第3学年「区の様子の変り変わり」の実践を通して—

世田谷区立経堂小学校 吉岡 泰志
町田市立南大谷小学校 杉本 季穂
町田市立大蔵小学校 石井 正広
八王子市立陶鎔小学校 島田 学
昭島市教育委員会 神薊 博之
八王子市教育委員会 北川 大樹

(2) 社会的事象の見方・考え方を働かせて、課題を協同的に探究する社会科学習の創造

町田市立大蔵小学校 石井 正広
同 森内 陽介
同 平山 斎
同 藤井百合子
同 鹿毛 知華

(3) 小学校社会科における実感的な学び(その7)

—3年 人口増や少子化を伴った地域の変化の学習—

東京学芸大学附属小金井小学校 根本 徹

(4) 日本の技術を生かした「ものづくり」に関するカリキュラム開発

—日本の文化を大切にしておもしろ消しゴム—

立正大学 石橋 昌雄
板橋区立板橋第十小学校 丸野 陽子
同 山野 紅葉
板橋区立板橋第八小学校 成田香穂里
同 野原 香織

(5)日本の技術を生かした「ものづくり」に関するカリキュラム開発

—地域の名産物を使ったソースづくり—

板橋区立上板橋第二小学校 川久保好子
立正大学 石橋 昌雄
板橋区立板橋第十小学校 飛驒野安位
同 吉田 隆志
同 諸橋 正多
同 橋之口清美

(6)社会科における副読本のメディア構成と活用法に関する研究(4)

—副読本の活用状況調査から—

信州大学 松本 康
同 篠崎 正典

自由研究発表Ⅱ—第11分科会 (G4-32)

司会者 元千葉県公立高等学校 加藤 公明
鹿児島大学 溝口 和宏

(1)小学校における歴史学習への興味関心を高める指導のあり方

—地域素材「鮮魚街道」の教材化と思考ツールを活用した意見交流を通して—

我孫子市立湖北小学校 神野 智尚

(2)低学年社会科授業の実践

—2014年度からの取組をもとに—

広島大学附属小学校 服部 太

(3)絵画史料と文字史料の複合的な吟味・検討による歴史認識の育成

—絵画史料『死の勝利』をもとにした中世ヨーロッパ歴史授業を通じて—

新潟市立上山中学校 早福 史

(4)ワイマール共和国崩壊過程—民主制の危機—の授業構成を考える

—社会科政治教育の探究—

東京都立井草高等学校 山崎 裕康

(5)社会科歴史ディベートのジャッジと主権者教育

—元老院「徴兵令改正」審議の教材開発—

山形大学 江間 史明

(6)戦争体験「語り」の継承と「次世代の平和教育」(2)

—沖縄の実践を事例として—

秋田大学 外池 智

自由研究発表Ⅱ—第12分科会 (G4-33)

司会者 岩手大学 今野日出晴
敬愛学園高等学校 榎澤 和夫

- (1) 「8・15終戦」史観を相対化する授業
—北海道から見る<日本>の歴史②—

札幌市立もみじの丘小学校 大谷 伸治

- (2) 新田開発は農民と武士にとってどちらが有利か？
—中学生が越後の新田開発を討論する—

新潟市立石山中学校 小林 朗

- (3) 日清戦争の「英雄」となった一日本人の苦闘と孤独
—向野堅一『従軍日誌』選読—

埼玉県立所沢西高等学校 向野 正弘

- (4) 教育課題校の日常の歴史授業で教師はどのような「言語活動」を行っているか
—夜間定時制課程における日本史A「幕藩体制の崩壊」の授業分析を例として—

東京都立農業高等学校 大木 匡尚

- (5) 日清戦争の戦場と銃後をつなぐ授業
—軍夫を教材として—

千葉市立千葉高等学校 四十栄貞憲

- (6) 北方史を題材とした高等学校日本史の単元開発

青森県総合学校教育センター 金子 勇太

自由研究発表Ⅱ—第13分科会 (G5-21)

司会者 皇學館大学 深草 正博
桜美林大学 田中 暁龍

- (1) 義経北行伝説の重層性
—歴史教材化に向けて—

早稲田大学高等学院 森下 壽典

- (2) 新学習指導要領と「歴史総合」に向けて
—私案：これまでのAL実践例から考える—それでも世界史Aのすすめ—

東京都立杉並総合高校 藤野 明彦

(3) 日本人のアジア認識と歴史教科書

—新科目「歴史総合」のあり方に向けて—

弘前大学 篠塚 明彦

(4) 世界史教育の課題と高校歴史新科目の構想

—中・高の社会科と大学の教員養成課程の授業実践から—

東京学芸大学 日高 智彦

(5) 高等学校地理歴史科「歴史総合（仮称）」の構成に関する一考察

—中学校社会科歴史的分野「欧米の進出と日本の開国」の実践を通じて—

千代田区立九段中等教育学校 須郷 一史

(6) 戦後歴史教育の動向から見た歴史意識と歴史的思考力の特徴と課題

—21世紀社会に対応した歴史的思考力育成型授業の開発に向けて—

目白大学 田尻 信壹

昼食 12:00～13:00

大会参加（事前登録）申込フォームにて申し込まれ、振り込みが完了された方には、弁当を大学会館生協食堂にてお渡しします。

I 小・中・高で社会的な見方・考え方をどのように育てるか (G4-43)

[趣旨]

新しい学習指導要領が小中学校において改訂され、三つの柱の学力を重視する「主体的・対話的な深い学び」が重視されています。社会認識形成に関わる学習内容の定着とともに、社会的事象に関する見方・考え方の育成は、長年、社会系教科の授業研究課題となってきました。また、18歳選挙権時代が現実となり、小・中・高における主権者教育の課題としても社会的な見方・考え方の育成は、最重要課題となってきました。本課題研究では、小・中・高の実践提案から議論を深めていきたいと思えます。

コーディネーター 鳴門教育大学 西村 公孝
コーディネーター・指定討論者 岡山大学 桑原 敏典

報告者

(1) 小学校で社会的な見方・考え方をどのように育てるか

—地域教材の開発と思考・判断の「すべ」、第二の学習問題を活用した学習指導の試み—

岡崎市立三島小学校 加藤 有悟

(2) 自ら問い続ける生徒の育成

—社会的な見方や考え方を広げる授業作りを目指して—

千葉大学教育学部附属中学校 鹿瀬 みさ

(3) 高等学校公民科における主権者教育

—論争問題に対する見方・考え方の育成—

新潟大学 田中 一裕

II 社会科教育はメディア・リテラシーをどう捉え、育てるのか (G4-44) —ソーシャルネットワークサービス(SNS)/モノのインターネット(IoT) 時代におけるICT活用—

[趣旨]

情報化の進展は、ヒト・モノ・コトのつながりを変えてきました。SNSは情報インフラとして活用場面が拡大し、IoTは人間活動の最適化に役立てられています。捉えるべき社会の姿は変貌を続け、来るべき社会の展望は難しい現状において、これからの社会科教育は、情報を読み解く力であるメディア・リテラシーをどう捉え、育てていけばよいのでしょうか。本課題研究では、情報社会の現状理解を出发点に、社会科教育で扱うべきメディア・リテラシー像とその実践のあり方について議論を深めます。

コーディネーター 東京学芸大学 川崎 誠司
明治学院大学 佐藤 公

報告者

(1) 初等中等教育における教育情報化の現状と今後の展望

—学校教育における ICT 活用の実際と課題について—

N T T ラーニングシステムズ株式会社 鈴木淳一郎

(2) 小学校社会科における ICT 活用とメディア・リテラシー

—ウェブアプリケーションを活用した 5 年生の情報単元の授業分析を手がかりに—

東京学芸大学 川崎 誠司

(3) 「情報」の主体的な収集・活用を軸としたメディア・リテラシー教育

—中学校社会科における情報活用能力の育成と ICT 活用—

千葉大学教育学部附属中学校・千葉大学大学院 五十嵐辰博

Ⅲ 社会科の学習とカリキュラム・マネジメント (G4-34)

[趣旨]

学習指導要領案には、教育課程の改善に向けた各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントが求められています。長年にわたり「しごと」学習や問題解決学習に取り組んできた、学習研究連盟および社会科の初志をつらぬく会では大単元展開での学習を行ってききましたが、それはカリキュラム・マネジメントを行いながらの取り組みでもあります。2つの民間教育団体の実践を検討することを通して、社会科にどのようにカリキュラム・マネジメントを位置付けるかについて考えます。

コーディネーター 宇都宮大学 溜池 善裕
帝京大学 鎌田 和宏

報告者

(1) 仲間と聴き合い、語り合う社会科授業の創造

—自律性と協調性の育成を目指して—

東京学芸大学附属世田谷小学校 松本 大介

(2) 深い学びを創り出すしごとの学習

—授業と授業の間も続く学びの文脈—

奈良女子大学附属小学校 薄田 太一

IV 東日本大震災の経験をどのように授業に活かすか (G4-24)

[趣旨]

東日本大震災から6年が経過した現在、震災の経験や被災地の実態を踏まえた社会科授業のあり方が問われています。昨年度の課題研究では、被災地の現状報告とそれに基づいた授業実践について検討しました。しかし、被災地の学校と被災地以外の学校とでは授業で取り上げるべき内容や視点が異なります。今年度は被災地以外の学校を中心に震災に関わる授業実践をご報告いただいた上で、震災の経験をどのように社会科の授業に活かすべきかについて、議論を深めたいと思います。

コーディネーター 福島大学 初澤 敏生
早稲田大学 池 俊介

報告者

(1) 3.11後を生きるための社会科教育試案

—小学校教員の歩み—

千葉県浦安市立舞浜小学校 板垣 雅則

(2) 地域問題学習としての防災教育のあり方

—千葉県鋸南町における災害弱者をめぐる授業実践を通して—

千葉県館山市立北条小学校 石井 俊道

(3) 東日本大震災の経験を活かしたカリキュラム・マネジメント

—静岡県における小学校社会科・総合的な学習を事例として—

静岡県袋井市立浅羽南小学校 大宮 英揮

V ICTを活用できる社会科教員の養成 (G4-33)

[趣旨]

平成28年12月に「デジタル教科書」の位置付けに関する検討会議の最終まとめが出ました。また、平成28年11月からは学校におけるICT環境整備の在り方に関する有識者会議で議論が進められています。教育現場では、次期学習指導要領に向けてICT環境等が加速度的に整備されつつあります。

こうした中で、社会科の目標を確実に達成するために、ICTを活用できる教員の養成が求められます。ICTを活用した社会科授業ができる教員を大学でどのように養成するか、検討したいと思います。

コーディネーター 東京学芸大学 大澤 克美
桐蔭横浜大学 谷田部玲生
指定討論者 広島大学 草原 和博

報告者

(1) デジタル教科書の基本的な機能と活用場面

—デモンストレーションと解説—

教育出版 金子 純朗

(2) ICT・デジタル教科書を活用した授業づくり

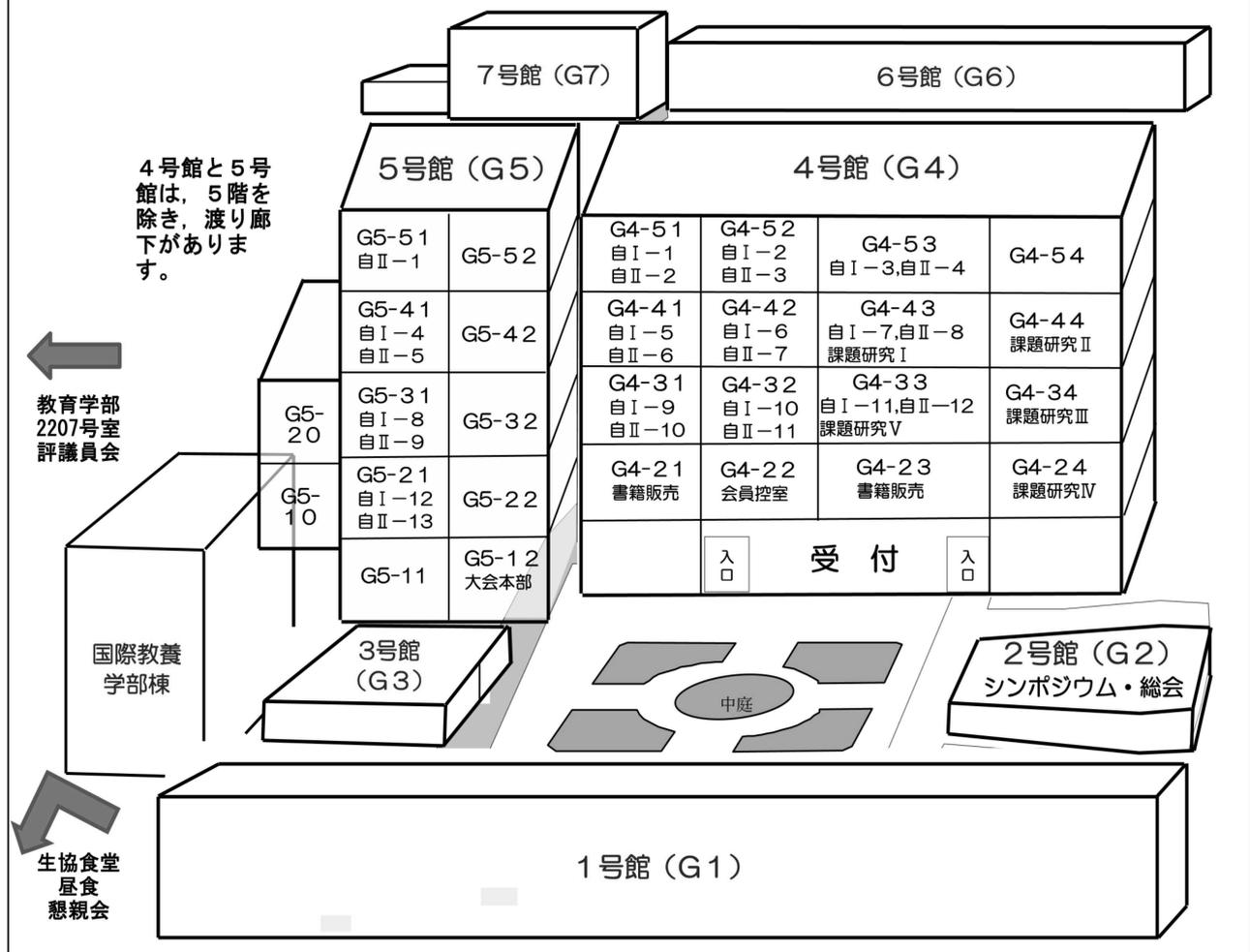
—中学校社会科地理的分野「アラル海の縮小」を事例として—

品川区立浜川中学校 森 賢士

(3) ICTを活用できる社会科教員養成のカリキュラム編成に向けて

信州大学 小山 茂喜

会場案内・総合校舎講義室等案内図



大会参加要項

1. 参加費

(1) 大会参加費

一般会員 : 3,000円 (事前登録) 3,500円 (当日受付)

学生・院生会員 : 2,500円 (事前登録) 3,000円 (当日受付)

非会員 : 3,500円 (事前登録・当日受付)

(2) 懇親会参加費

会員・非会員 : 4,500円 (事前登録) 5,500円 (当日受付)

(3) 弁当代

第1日目のみまたは第2日目のみ : 800円 (事前登録) 両日 : 1,600円 (事前登録)

(4) 大会参加事前登録の締め切り

大会参加事前登録は、2017年8月31日(木)までに、【大会参加(事前登録)申込フォーム】での申し込み、参加費の振り込みの両方が完了した時点で事前登録完了となります。期日までに、参加費・懇親会費の入金がない場合、当日受付金額を申し受けます。また、弁当はご用意できません。

(5) 事前登録のキャンセルについて

事前登録を完了された方の参加のキャンセルは、2017年9月7日(木)の13時まで受け付けます。8月31日(木)までは、事前登録の自動返信メールに記載されている「編集・キャンセル画面のURL」よりご自身でキャンセル手続きをお願いいたします。9月1日(金)～9月7日(木)の間に大会参加をキャンセルされる場合は、大会実行委員会までご連絡ください。なお、事前登録を完了された方が、大会に参加できなかった場合、後日、登録された住所に『大会発表論文集』を送付いたします。

2. 研究発表の準備について

(1) 自由研究発表の発表時間は、発表20分、質疑応答10分の計30分です。

(2) 研究発表で資料を配付される場合、自由研究発表は70部以上、課題研究発表は100部以上、シンポジウムは500部以上をご用意の上、発表当日ご持参ください。なお、大会実行委員会宛に発表資料を送付されることは固くお断り致します。また、発表資料が足りなくなった場合、実行委員会での増し刷りもお断り致します。

(3) 発表会場には、プロジェクター (RGB 接続) が標準装備されています。プロジェクターを使用される方は、パソコン、必要なケーブル及び変換アダプター等を必ずご持参ください。

3. 「関連行事」について

課題研究Ⅱ・Ⅴとの関連行事として、千葉大学教育学部附属中学校にて公開授業及び授業検討会を行います。ただし、参加者は事前に申し込まれた先着30名に限定させていただきます。当日の参加申し込みはできません。

4. 会期中の昼食（弁当）について

弁当は、事前登録が完了した方のみご用意致します。弁当は大学会館生協食堂にて受け取り、食堂内で召し上がりいただけます。弁当殻は食堂およびシンポジウム会場前にて回収致します。

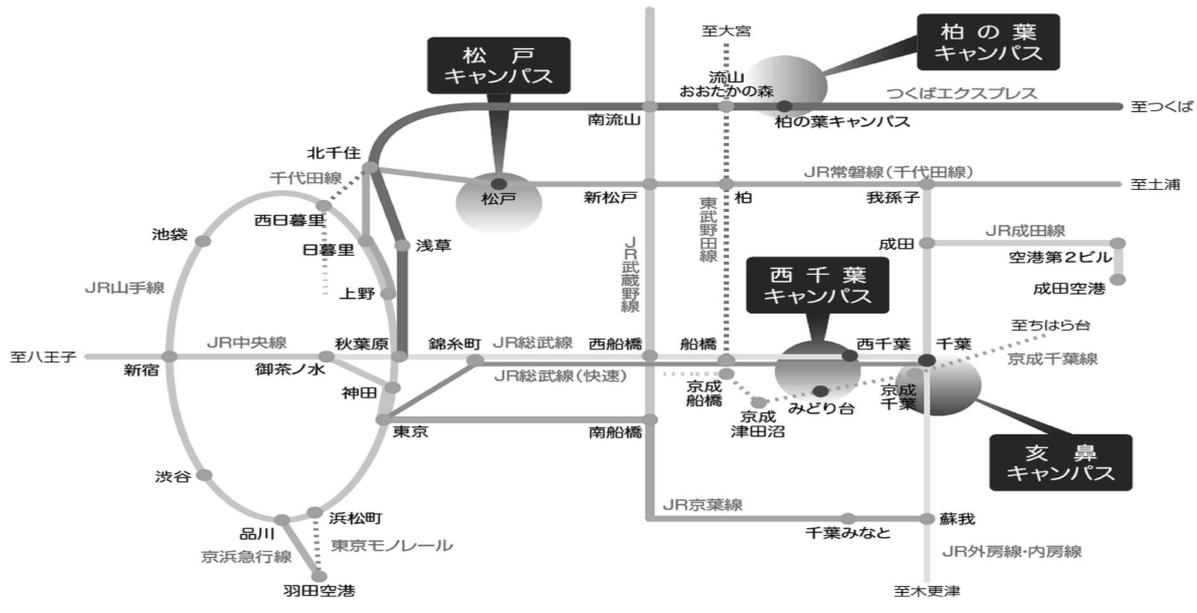
5. 全国研究大会参加時の保育費支援制度について

本学会では、男女共同参画の趣旨に則り、子どもを誰にも預けられず全国研究大会に参加できない会員の保育費を援助するため、全国研究大会参加時の「保育費支援制度」があります。制度規定及び利用申請書は本学会 HP よりダウンロードし、本学会事務局に直接お申し込みください。

6. 千葉大学西千葉キャンパスマップ



7. 会場（西千葉キャンパス）へのご案内



○品川駅・東京駅から

J R 総武線・横須賀線（快速） 「稲毛」駅で総武線（各駅停車）に乗換え、「西千葉」駅下車、徒歩2分（キャンパス南門）

○新宿駅・秋葉原駅から

J R 総武線（各駅停車） 「西千葉」駅下車、徒歩2分（キャンパス南門）

○上野駅・日暮里駅から

京成本線（特急） 「京成津田沼」駅で京成千葉線に乗換え「みどり台」駅下車、徒歩7分（キャンパス正門）

○羽田空港から

京浜急行線 「品川」駅でJ R 総武線・横須賀線（快速）に乗換え、「稲毛」駅で総武線（各駅停車）に乗換え、「西千葉」駅下車、徒歩2分（キャンパス南門）

東京モノレール

J R 「浜松町」駅で山手線又は京浜東北線に乗換え、「東京」駅あるいは「秋葉原」駅経由で「西千葉」駅下車、徒歩2分（キャンパス南門）

○成田空港から

J R 成田線 「千葉」駅で総武線（各駅停車）に乗換え、「西千葉」駅下車、徒歩2分（キャンパス南門）

京成本線（特急）

「京成津田沼」駅で京成千葉線に乗換え「みどり台」駅下車、徒歩7分（キャンパス正門）

8. お問い合わせ先

日本社会科教育学会第67回全国研究大会（千葉大会）実行委員会 戸田善治

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学教育学部内

メールアドレス jass67chiba@gmail.com

【お問い合わせフォームURL】 https://www.ics-com.biz/well_form/jass67chiba/entries/add/5。